



平成30年度(第72回)

芭蕉祭

俳聖松尾芭蕉の偉業を称え遺徳を偲ぶ「平成30年度(第72回)芭蕉祭」を、10月12日(金)、上野公園を中心に行いました。

芭蕉翁銅像、文学碑への献花・献菓のあと、上野公園内の俳聖殿前で厳かに式典を行いました。式典は「芭蕉祭子ども合唱団」による「芭蕉さん」の斉唱で始まり、献詠俳句特選句の披露、懸額除幕、各受賞者への表彰などを行いました。

各部門の特選句と、一般の部で入選した市内の皆さんの句を紹介します。

【応募数】 一般の部：8,165句

テーマの部：1,709句 児童・生徒の部：24,701句

英語俳句の部：19カ国から414句 連句の部：119巻

絵手紙：787枚 ポスター原画：672枚

【問い合わせ】

文化交流課 ☎22・9621 FAX22・9619

一般の部 特選

▼有馬朗人 選

天山ははるかに聳え蟻の道
兵庫県 小林恕水

▼稲畑汀子 選

伊賀の地に想ひを馳する翁の忌
横浜市 松永朔風

▼茨木和生 選

生身魂船幽霊は夫と言ふ
四日市市 長田久子

▼宇多喜代子 選

観覧車六月の青掬ひけり
江戸川区 中村光声

▼小澤實 選

雷ひとつ牛は肩より立ち上がる
名古屋市中沢芳治

枇杷熟れぬ宗房書見節上げ
調布市 片岡昌子

建造中武蔵四百屯に簾
杉並区 嶋田恵一

▼鍵和田柚子 選

海鳴りや魂は還らず鴟の贄
町田市 小田中柑子

▼黒田杏子 選

動くたび赤子のひかる今朝の秋
志摩市 廣波青

▼坂口緑志 選

老海女の西瓜抱へて高笑ひ
志摩市 浜口久美子

▼塩田敷柑子 選

接戦を制し球児の夏終わる
姫路市 中野万知

▼棚山波朗 選

水鶏鳴く声に暮れゆく近江かな
伊賀市 川瀬勝子

▼西村和子 選

借景は伊賀の山並大茅の輪
奈良市 渡辺政子

▼長谷川權 選

また一步未来へくぐる茅の輪かな
八戸市 三浦成子

▼星野椿 選

初鏡この世にひとつだけの顔
西尾市 齋藤佳織

▼正木ゆう子 選

泉まだ生まれしままの姿なり
日進市 戸田絢子

▼三村純也 選

水切りを教へて帰す夏休み
横浜市 三玉一郎

▼宮坂静生 選

羅を着て宵つぱり意地つぱり
和歌山県 今井善衛

▼宮田正和 選

草笛の歌にならねど歌ふなり
奈良市 池田雪彦

ゆつくりと今が過ぎゆく沙羅の花
伊賀市 米野てるみ

英語俳句の部 特選

▶河原地英武 選(訳)

statue of Basho
 carrying favorite stick
 spring breeze (春風や常の杖曳く芭蕉像)
 Hiromi Yoshida (吉田博實) / 日本

refugee camp -
 in the wandering wind
 a paper plane (難民の紙飛行機が高空へ)
 Iulian Ciupitu (イウリアン・シウピウ) / ルーマニア



連句 特選

▼青木秀樹 静寿美子 鈴木渚

西田青沙

共選(五十音順)

※半歌仙『浮世の』の巻

兵庫県 つばさ連句会

八尾

暁吉女 捌

旅寝して見しや浮世の煤払ひ

芭蕉翁

耳元ちかく冬の波音

八尾暁吉女

カフェテラススカルフルな椅子並ぶらん

城依子

榊大樹は枝を広げて

斎藤桂

まんまるの月に願ひて描く夢

岡部七兵衛

身ほとりのものなべて爽やか

依子

村芝居石屋の親父名女形

暁吉女

尼僧も混じるバックコーラス

七兵衛

頁繰る細きあの指気にかかり

桂

大型犬はのほほんとして

暁吉女

栄町路面電車が停車する

依子

ビール次々に乾杯

桂

激論に汗の飛び散る午後八時

七兵衛

国の未来を誰に託さん

依子

風の向き右も左も定まらず

暁吉女

ふはりひらりと春のスカート

七兵衛

嬰鑠と孕寿の恩師花の下

依子

間々に聞こえるうぐひすの声

桂

平成三十年五月二十六日 満尾

インターネット掲示板



テーマの部 特選

テーマ「雪」

▼片山由美子 選

吹雪く夜は誰も無口となりけり
 淡雪のかたち何かに触れるまで

世田谷区 石川昇
 枚方市 藤田康子

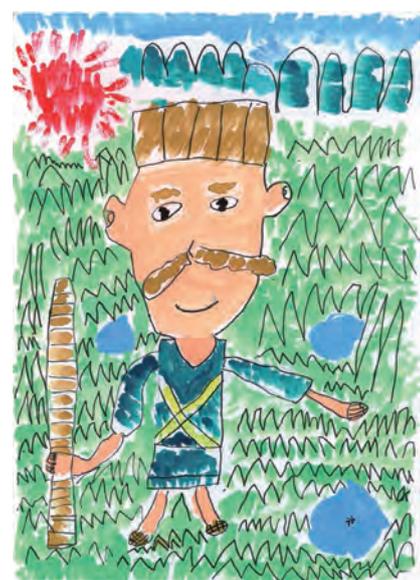
絵手紙 特選

奈良県 宮地政弘



ポスター原画 特選

上野東小学校三年 田中一路



お知らせ 拡大版

お知らせ

催し

募集

まちかど通信

コラム

図書・救急など

児童・生徒の部 特選

〔保育園(所)・幼稚園・小学校1～3年〕

▼喜多富美・坂石佳音・永井みよ・東構東子・福山良子 共選 (五十音順)

はねのおとあそこにせみがかくれてる
はのうえでにんじゅつつかうかまきりだ
なすびつてたねはあるのたべてたよ
こおろぎがあそびにきたよよるのまど
はんかちのなかでほたるがひかつてる
かぶとむしもりのにおいがついている
ひまわりにベーターベンのかだいきよく
ながればし一つぽんばしのむこうがわ
ざんやんま七十キロでとんでいる
買物のおつりをば金赤い羽
しあいの日にじを見つけたかてるかも
カレンダーなつのぼうけんつめこんだ

曙保育園 市川混人
睦保育園 山本耕輔
みどり保育園 杉本悠真
上野東小学校一年 山西瑛里奈
上野西小学校一年 松本 啓
西柘植小学校一年 なかむらかふう
上野東小学校二年 其道侑士
依那古小学校二年 森岡 裕
神戸小学校二年 上ノ本愛彩
上野西小学校三年 片山 遼
府中小小学校三年 森 真寧
依那古小学校三年 西岡詩織



〔小学校4～6年〕

▼岡島千秋・北村みち・佐々木経子・西村八洲子 共選 (五十音順)

ばあちゃんの畑は夏のたまたまて箱
妹の産まれた夜の豆御飯
国道にかかると二重の虹くぐる
海釣りで見上げた空はうるこぐも
語り部を引きつぐ祖母や原ばく忌
真っ青な空にぐんぐん雲の峰
山上の城あおぎ見るう飼舟
かわられた先生見つけた運動会
一等星夏の夜空の覇者になる

江東区立扇橋小学校五年 金井恵美
上野西小学校四年 山口夢叶
阿山小学校四年 隠岐春菜
友生小学校五年 中川媛華
壬生野小学校五年 坂本結大
上野西小学校六年 富 知優
新居小学校六年 福田晴翔
西柘植小学校六年 中林 叶



〔中学校・高等学校〕

▼下村哲朗・土井陽代・浜地和恵・藤井充子・山村勝子 共選 (五十音順)

アスファルト雷雨打ち付け跳ね返る
汗にじみかすんで見える得点板
欄干に糸を張り出す朝の蜘蛛
母さんが小さく見えた新学期
合宿で走る山道草いさきれ
和太鼓の音で始まる盆おどり
運動会マイク握れば標準語
炎天を走ってつかめ優勝旗
体育会そろいの靴や五月晴れ
数学の難問を解く梅雨晴間
もろこしをかじり笑顔の輪となりぬ

緑ヶ丘中学校一年 今井湊太
緑ヶ丘中学校一年 吉原匡洋
東京都港区高輪中学校一年 佐々木悠
緑ヶ丘中学校二年 松岡大夢
城東中学校二年 森口伊吹
霊峰中学校二年 佐古智也
緑ヶ丘中学校三年 田場雄羽太
島ヶ原中学校三年 川南心美
直方市立直方第二中学校三年 出口こころ
三重県立紀南高等学校三年 平 樹

愛知県立安城高等学校三年 石原舞子

一般の部 入選

※伊賀市在住の人のみ掲載しています。

▼有馬朗人 選

ねぢ花や仇討ありし鍵屋辻
大茅の輪槍の又兵衛修業の地
かなかなや谷の出小屋の黒電話
わが代で終る稲田の波光る

永井みよ

和田美代子

神尾早智子

山本智子

▼稲畑汀子 選

朝の日に抱かれ消ゆる露の綺羅
刈り取りしラベンダーの香を束ねけり

北村みち

子日康子

山村勝子

藤井充子

▼茨木和生 選

暑氣中り癒えて心の整はず
夏萩の風のそよぎに色こぼす

福山良子

池本準一

▼宇多喜代子 選

雨の日の杜宅の窓の紙幟

池本準一

浜地和恵

▼小澤實 選

窯焚きの火樗となす今年藁

福山良子

和田美代子

▼鍵和田柚子 選

紅花に風立つ東大寺別墅
八十路とて真摯にくぐる夏越の輪

谷本州子

中嶋國博

土井陽代

川口登子

▼黒田杏子 選

空豆を炒り追想す終戦日
伊賀に來よ兜太の魄よ翁の忌
梅漬けの甕の酢揺らし暁の地震
向日葵田向日葵畑ゴッホ忌來

西田尚子

原 禮子

町中和子

福永愛子

松岡美都子

▼坂口緑志 選

御讓位に鳴るてふ古墳巢立鷹
山路来て祈る姿に泉汲む
修祓終へし夏越の禰宜の杵の音
大空へ大輪描く恋の鳶
青葉木菟小さき寢息に添ひ寝せり

お知らせ拡大版

お知らせ

催し

募集

まちかど通信

コラム

図書・救急など



▼塩田敦柑子 選

地ビールに商運懸けて村興し
熱帯夜深夜テレビの声虚ろ

葛原恵葩

山下葉苗

▼棚山波朗 選

玉砂利に音の揃ひて杜涼し
早苗饗の子のはしやぎたる父の膝
俳聖殿緑雨の中に包まれり
山晴の鳥語重なる翁の忌
れんげ野に姉と遊びし幼の日
空に道あるかに北へ鳥帰る
唐崎の松の支梅雨の晴
ラジオより掛け声のして夏休み

和田柏忠

米野てるみ

佐々木経子

山下久美

西田ゆかり

保田ひろ子

中西昭子

居附泉一

▼長谷川權 選

噴水に合はせて上がる子らの声
墨磨りて傷に塗り込む桜守
春惜しむ峠はるか見えし時

平岡雪代
中森三津子
河口 亨

▼星野椿 選

鐵置きてしばし見とれる二重虹
伊賀越への御斎峠は夏の霧
七月の村を呑み込む魔の豪雨
母の忌や一際白き百合を選る
鈴蘭の香に包まれて結ばるる
大橋に早も人出て螢飛ぶ
葉櫻の参道風と詣でけり

藪中和代

豊田礼子

松村咲子

森本文子

井上英子

藤井充子

松井和子

▼三村純也 選

わが村で捕へし猪の鍋と聞く
篝火に鶉匠の髭の映えにけり

岡田 節

権蛇邦子

▼宮坂静生 選

法螺貝で始まる羯鼓山開
双眸が闇夜に光る若牡鹿

岡島千秋

今村有理香

▼宮田正和 選

陸橋の炎暑電車の傾き來
一塔を鳥のよぎりし秋遍路
大空を大きく揺らし青芭蕉
またひとつ葦辺奥より螢くる
夏燕今一瞬の茜色
夕さりの葉擦れに小暑来てあたり
廃線の決まりし軌条片かげり
墨の香の秋あらたなる写経の間
早乙女の菅笠のまま祓はるる
綿飴の苦手な幼な夏祭

小倉秋子

菊山時子

山下久美

森永康子

小川ひとみ

西田ゆかり

岡島千秋

松本ちい

宮谷ふさ子

菊本博子

▼片山由美子 選

病室の窓少し開け雪の屋
あをあをと夜の雪深透せて立つ
寺田屋の大提燈に春の雪
有り合せの野菜スープや雪催

北田美智代

米野てるみ
中森里江
箱林のぶ子